

特集1:セルフデザインコースで得られた気づきが、目標実現へ動き出すきっかけに
コラム:「保育の質向上」と「メディアでの発信」が両輪となって、選ばれる園・施設づくりを実現

特集1:セルフデザインコースで得られた気づきが、目標実現へ動き出すきっかけに

保育施設向けの実践型オンライン研修「ルクミーみらい保育スクール」では、園・施設の課題解決や保育の質向上を目指す先生方を、さまざまな研修プログラムでサポートしています。

その中のひとつである「セルフデザインコース^{*}」に参加されたのが、みどりこども園の豊田園長先生です。

研修に参加したことで、保育内容や園の運営についての見直し方針を言語化でき、実現に向けて動き出せたといいます。セルフデザインコースで得られた気づきやその後の園の動きについて、豊田先生にお話をうかがいました。



写真はみどりこども園外観

^{*}:「ルクミー みらい保育スクール『セルフデザインコース』」とは、ワークシートを用いて受講内容やご自身の気づきをまとめていき(第1回～第4回)、グループに分かれて発表会を行う(第5回)ことで、取り組むべき目標を具体化していくプログラムです。
2022年度は「セルフデザインコンテンツ」としてサービスのご提供方法が変わっております。

子どもたちが安心して住める地域づくりに貢献したい



私たちは、「この法人があるからこの地域に来た」と言われるような法人を目指しています。
みどりこども園は先代の園長先生の頃から地域活動に参加しており、地域からも大切にされている園なんです。
私もそれを引き継ぎ、積極的に地域に入っていくよう意識しています。

ただ、ここ20年で地域は少し元気がなくなってきていると感じることもあります。
地域の絆も薄れてきており、自治会も機能しなくなってきている印象です。

そこで、当園が地域の絆を維持する機能を担い、地域活動の円滑化に寄与できればと思っています。
実際に、私たちが運営する園や児童館があることで「安心できるとしてこの地域に引っ越してきました」といった声も。
子どもたちが安心して移ってこられる地域にすることも、今後の社会福祉法人の役割ではないでしょうか。

また、園としては、子どもたちに広く浅くさまざまな経験をさせたいですね。
家庭だけでは経験できないことを園でたくさん経験させ、いつの日か何かにつながるきっかけを子どもたちに残せたらいいなと思っています。
「子どもだからできない」などと決めつけず、さまざまな経験の中から一人ひとりの得意なことや好きなことを見つけ、保護者の方に伝えていきたいんです。

多様な講師陣から得た学びが、自分の考えを表現する手助けに

園が目指す姿を実現するためには、まず園長自らが中心になって発信していかなければなりません。

しかし私の場合、自分の内側にあるものを形にして表現することに苦手意識がありました。

園としてやってみたいことや発信したいことはたくさんあるものの、シンプルに表現できず、周りに協力を得ることもできないことが課題だったんです。

そこで今回、セルフデザインコースに参加。

参加した結果、自分の内側にあるものを整理整頓でき、具体的に発信する手助けとなったと感じています。一般的な研修は人の講師から教わる形式が多く、賛同できる部分もあれば自分の考えに合わない部分もあるもの。

しかし、セルフデザインコースは講師陣が多様なため、多くの気づきや学びを得られました。

加えて、受け身で学ぶのではなく、自分の中で何かを目覚めさせられるような研修形態。

このような研修が各地域で開催されるといいですね。

参加してすぐ目標実現への一步を踏み出せた

実は、セルフデザインコースに参加する前から、保育目標や園運営マニュアルの見直しを考えていました。

コロナ禍の影響を受けて「今まで当たり前に来てきたことは当たり前ではないかもしれない」と感じ、不要なところは削ぎ落としたいと思ったことがきっかけです。

特に地域にむけての行事や園の行事が多く、先生たちの仕事量が増えていたことに課題を感じていました。

もちろん、子どものどこを育てたいのかを明確にし、その狙いに向けて行事を実施してきました。

しかし「本当にその行事でいいのか？」や「その回数が最適なのか？」といった部分をあらためて突き詰めたんです。

そこで、必要なことは継続し、そうでないことは削ぎ落としていくことに。

令和3年度中に法人や保育のマニュアルを見直し、令和年度はそれに沿った保育を実践したいと考えていました。

セルフデザインコースに参加した後、まずはマニュアルを見直すための土台について話し合う場を設定。

自分の考えを表現できるようになったため、話すべきことや方向性を発信して、メンバー収集と場の設定ができたことは、当園にとっての大きな一歩となりました。

自分の内側に持っていたものを形にできたので、今は「考えてきてよかった」と思えます。

ICT活用で子どもと向き合う時間を最大化したい

当園では「子どもと向き合う時間を長くしたい」と考え20年前からパソコンやタブレットを導入しています。

園の事務所には、パソコンとタブレットが十分に用意されている状態です。

ITツールが苦手な人には、得意な人が教えてあげながら活用を進めてきました。

そのタイミングで、不要な日案作成など、保育をするうえでの不要な業務を省いて簡略化。



今では、朝の数分で月案を作成できるようになりました。現在、園内のやりとりをほぼICT化できているので、次は手書きにこだわっていた連絡帳をCTツールに置き換えることが目標です。

手書きを残したいという意見もありますが、本当に必要なことを突き詰めると、保護者との連絡ツールもICTで構わないのではないかと思ったんです。

今後は保護者とのコミュニケーションをとりやすくするため、パソコンやタブレットより手軽に扱えるスマートフォンを用いたICTツールの導入を検討しています。

加えて、系列園が同じゴールを共有できるよう、研修参加後に本部機能を設置しました。

職員との対話を重ね、それぞれの意見を尊重しながら園の方向性を示すようにしているところです。



今後目指したいこと

これまで培ってきた経験やネットワークを活用し、そして今回の研修で学んだことを最大限に活用しながら私のライフワークと考えている地域子育ての中心基地として、地域の財産となれる法人を目指し、子育て支援ワンストップサービスの実現を目指します。

コラム:「保育の質向上」と「メディアでの発信」が両輪となって、選ばれる園・施設づくりを実現

少子化が進む今、園・施設の姿を保護者にどう伝えていくべきか悩む先生も多いのではないのでしょうか？

そこで今回、モデル園コミュニティ座談会で「選ばれる園づくりのために」をテーマとして、株式会社・小規模園と社会福祉法人・中規模園の3園の管理職の先生方に話し合っていました。

座談会で見てきたのは、園・施設の中身を深める重要性とともに、地域に知ってもらうための広報活動の大切さです。今回の座談会の内容をまとめましたので、ぜひ参考にしてみてください。

本日のテーマ

【リクエスト企画】

「どう保護者に自園の良さを伝えていくか
～選ばれる園づくりとは?～」

エリアによって差はあるものの、少子化が進み「選ばれる園づくり」をテーマにしたセミナーも増えている昨今。モデル園の皆様はこのテーマをどのように捉えていらっしゃるのか、ぜひお考えをお聞かせください。

ソーシャルメディアで園・施設の取り組みを見える化

地域によっては、近隣に複数の園・施設があるために、保護者から選ばれることが難しい状況もあるといいます。

特に今は、インターネット検索よりSNSを利用する保護者が多く、園のホームページを見てもらうことすら難しい時代。

そこで、座談会に参加された3園とも、若い保護者の方がよく見ているInstagramやYouTube、LINEなどを使って、園の様子や取り組みを知ってもらう発信を始めているとのことでした。

Instagramは普段の保育の写真を、YouTubeには施設の中の様子を映した園紹介動画をアップロード。

園見学の際にその動画を見てもらうことで、園内の様子をよりわかりやすく伝えるよう工夫しているそうです。

LINE公式アカウントを開設し、週1回、子どもたちが遊んでいる様子を動画で配信しているという園もありました。

なかには、新聞やテレビなどのメディアを使うことで、より多くの人たちに園を知ってもらおうと検討している園も。

第三者の声によって、園・施設の良さを地域の方々に広く知ってもらう機会を作りたいのだそう。

ただし、地方の場合は番組自体が少ないため、園・施設の取り組みを取り上げてもらうことも簡単ではありません。

メディアとのつながりがない場合には、どのようにして情報提供をするのかといった悩みも生まれます。



保育や保育者の質を高め、保護者の良いクチコミを生むことが大切

ソーシャルメディアやテレビなどで園・施設を広く知ってもらう必要性も感じる一方、選ばれるためには保護者のクチコミが一番効果的だと感じているそうです。

そのためには、在園している子どもの保護者に対し、園がどのような取り組みをしているのかしっかりと伝えることが欠かせません。

園の中の様子を伝えることで保護者の方に安心してもらうことが第一だと話す先生もいらっしゃいました。保護者の方に園・施設の様子を伝える手段として、写真を活用されている園も。

たとえば、クラスだよりには文章より写真を多用し、視覚的にわかりやすい状態にしているそうです。ICTツールを使って、子ども全員の様子がわかるよう毎日写真を発信している園もありました。視覚に訴えたほうが、保護者の方からの反応も良く、好評だといいます。

園・施設側からの発信より、実際に通っている保護者のクチコミのほうが説得力高いのだとか。いかに保育の質を高め、地域の保護者に認められる園になるかを重視している様子がうかがえました。

地道な取り組みで、地域に根ざした園をつくる

保育の質を高める重要性は上述の通りですが、同時に、地域に入っていった園・施設を認知してもらうことも重要だと話す先生方。園・施設という場所だけでなく、園の人の顔を覚えてもらうため、地域の会合に参加するなどの工夫をしているところもありました。地域を巻き込んだイベントを企画したり、地域のイベントに積極的に参加したり、園庭開放をしたりと、地域の人に園・施設を知ってもらおうと取り組む園も。

そのようなイベントのなかで、園選びに悩んでいる保護者の方と一対一で話をして細やかなフォローをしているそうです。

加えて、近隣園の情報が入ってこないことも課題に感じているといいます。

そこで、市内の園・施設の先生を巻き込んで情報共有できる場を作ったという先生もいらっしゃいました。

先生方のエプロンを統一し、お散歩に出たときにどの園・施設の先生なのか認識してもらえるような工夫も功を奏したのだとか。「先生の挨拶が気持ちよかったから」という理由で園を選んでくれた保護者の方もいたそうです。共通のエプロンをつけた保育者も、園・施設の看板を背負うので気が引き締まる効果もあるのだと話していました。

編集後記

地域に対して園をどのように見せていくのかという点が、これから重要になっていくと思われます。保育や保育者の質を高めた結果、良いクチコミが広がって選んでももらえるようになることも。その一方、ソーシャルメディアなどを利用して園・施設を知ってもらうことも必要なのだとわかった座談会でした。

いずれの園も地道な活動を行い、地域に根ざした園づくり、ひいては地域の中で選ばれる園づくりを目指して工夫を続けていきます。

ユニファは今後も、そのような取り組みを実践する園・施設を応援していきます。